

Oracle® Database

Database Examples インストレーション・ガイド 19c

F16182-01(原本部品番号:E96357-01)

2019年1月

Copyright © 2011, 2019, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。お客様との間に適切な契約が定められている場合を除いて、オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。お客様との間に適切な契約が定められている場合を除いて、オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

- [1 Examplesインストール・ガイド](#)
 - [1.1 Oracle Database Examplesメディアで使用可能な製品](#)
 - [1.1.1 Oracle Database Examples](#)
 - [1.1.1.1 Oracle Data Miningのデモについて](#)
 - [1.1.1.2 Oracleグローバリゼーション・サポートのデモについて](#)
 - [1.1.1.3 Oracle Message Gatewayの共通関連ファイルについて](#)
 - [1.1.1.4 Oracle Multimediaのデモについて](#)
 - [1.1.1.5 Oracle Precompilerのデモについて](#)
 - [1.1.1.6 Oracle Spatial and Graphのデモについて](#)
 - [1.1.1.7 Oracle Internet Directoryクライアントのデモについて](#)
 - [1.1.1.8 Oracle XMLのデモについて](#)
 - [1.1.1.9 Oracle Call Interfaceのデモについて](#)
 - [1.1.1.10 Oracle C++ Call Interfaceのデモについて](#)
 - [1.1.1.11 Oracle ODBCの関連物について](#)
 - [1.1.2 Oracle JDBC開発ドライバ](#)
 - [1.1.3 Oracle Textナレッジ・ベース](#)
 - [1.2 インストール前の考慮事項](#)
 - [1.2.1 空きディスク領域](#)
 - [1.2.1.1 UNIXプラットフォームの空きディスク領域の特定](#)
 - [1.2.1.2 Windowsシステムの空きディスク領域の特定](#)
 - [1.2.2 必須の製品](#)
 - [1.3 インストール・ソフトウェアへのアクセス](#)
 - [1.3.1 Oracle Database Examplesのダウンロード](#)
 - [1.4 Oracle Database Examplesのインストールについて](#)
 - [1.4.1 Oracle Universal Installerを使用したOracle Database Examplesのインストール](#)
 - [1.4.2 レスポンス・ファイルを使用したOracle Database Examplesのサイレント・インストール](#)
 - [1.4.3 読取り専用Oracleホームでのdemoディレクトリについて](#)
 - [1.5 ドキュメントのアクセシビリティについて](#)
 - [1.6 Java Accessibilityを実装するためのJava Access Bridgeの設定](#)

このマニュアルでは、Oracle Database Examplesで使用可能な製品のインストール方法および構成方法を説明します。次の項が含まれます：

- [Oracle Database Examplesメディアで使用可能な製品](#)
- [インストール前の考慮事項](#)
- [インストール・ソフトウェアへのアクセス](#)
- [Oracle Database Examplesのインストールについて](#)
- [ドキュメントのアクセシビリティ](#)

1.1 Oracle Database Examplesメディアで使用可能な製品

次の項で、インストールされる製品について説明します。これらの製品は、既存のOracle Database 19cのOracleホームにインストールする必要があります。

- [Oracle Databaseの例](#)
- [Oracle JDBC開発ドライバ](#)
- [Oracle Textナレッジ・ベース](#)

1.1.1 Oracle Database Examples

Oracle Database Examplesには、Oracle Databaseの製品、オプションおよび機能について学ぶために使用できる、様々な例と製品のデモンストレーションが含まれています。

これらの例の多くは、Oracle Databaseにインストール可能なサンプル・スキーマと連携するように設計されています。Oracleドキュメント・ライブラリのマニュアルの多くで、Oracle Database Examplesで提供されるプログラムやスクリプトの例が使用されています。

この項では、次の項目について説明します。

- [Oracle Data Miningのデモについて](#)
- [Oracleグローバルゼーション・サポートのデモについて](#)
- [Oracle Message Gatewayの共通関連ファイルについて](#)
- [Oracle Multimediaのデモについて](#)
- [Oracle Precompilerのデモについて](#)
- [Oracle Spatial and Graphのデモについて](#)
- [Oracle Internet Directoryクライアントのデモについて](#)
- [Oracle XMLのデモについて](#)
- [Oracle Call Interfaceのデモについて](#)
- [Oracle C++ Call Interfaceのデモについて](#)
- [Oracle ODBCの関連物について](#)

1.1.1.1 Oracle Data Miningのデモについて

Oracle Data Miningのデモには、Oracle Data Mining APIを理解するのに役立つData Miningサンプル・プログラムが含まれています。

Data Miningのサンプル・プログラムは、データの準備、アルゴリズムの選択、アルゴリズムのチューニング、テストおよびスコアリングを行うための一般的な方法を示しています。各プログラムで、データベースにマイニング・モデルが作成されます。すべてのプログラムには、コードの理解に役立つインライン・コメントが多数含まれています。

関連トピック

- [Oracle Data Miningユーザーズ・ガイド](#)

1.1.1.2 Oracleグローバル化・サポートのデモについて

Oracleグローバル化のデモは、Oracle Globalization Development Kitの機能およびAPIを示します。

Oracle Globalization Development Kit (GDK)は、グローバルなインターネット・アプリケーションの開発を容易にする完全なフレームワークを提供します。GDK Exampleのデモでは、ロケール依存のデータ・フォーマット、言語ソート、ロケール・マッピング、ロケール決定および言語検出など、個々の機能を説明します。Oracle Storeのデモでは、ユーザーに様々なロケール・プリファレンスを提供する完全な多言語のJ2EE Webアプリケーションを作成するため、GDKの機能を統合する方法を説明します。

関連トピック

- [Oracle Databaseグローバル化・サポート・ガイド](#)

1.1.1.3 Oracle Message Gatewayの共通関連ファイルについて

Oracle Messaging Gatewayを使用すると、Oracle以外のメッセージ・システムとOracle Database Advanced Queuingに基づくアプリケーション間の通信が可能になります。

Oracle Database Advanced Queuingでは、2つのOracle Database Advanced Queuingキュー間の伝播機能が提供されており、E-Business(IDAPを介したHTTP)が可能です。メッセージ・ゲートウェイでは、この機能をOracle以外のメッセージ・システムに基づくアプリケーションに拡張しています。メッセージ・ゲートウェイに提供されるサンプルでは、Oracle AQ、WebSphere MQシリーズおよびTibco Rendezvousに対するJMS、LCRおよびXMLを含むメッセージ形式を使用したメッセージの伝播機能が説明されています。

メッセージ・ゲートウェイでは異なる7つのサンプルが提供され、それぞれが独自のサブディレクトリを持ちます。各サンプルにはREADMEファイルが含まれ、設定およびサンプルの実行に関する詳細が記載されています。

1.1.1.4 Oracle Multimediaのデモについて

Oracle Multimedia(以前のOracle *interMedia*)は、Oracle Databaseで、イメージ、音声、ビデオまたはその他の異種メディア・データをその他の企業情報と統合された方法で格納、管理および取得できるようにする機能です。

Oracle Multimediaにより、Oracle Databaseの信頼性、可用性およびデータ管理が、従来のアプリケーション、インターネット・アプリケーション、電子商取引アプリケーションおよびメディアリッチ・アプリケーションにまで拡大します。これには、ユーザーが使用できるいくつかのスクリプトやサンプル・アプリケーションが含まれています。これらは、OCI、SQL、Java、PL/SQLおよびASP/VBScriptのサンプル・アプリケーション(デモ)で構成されています。

関連トピック

- [Oracle Database SecureFiles and Large Objects開発者ガイド](#)

1.1.1.5 Oracle Precompilerのデモについて

Oracle Precompilerのデモでは、ANSI標準に準拠した形でC/C++およびCOBOLコードにSQL操作を埋め込む方法を、アプリケーション・プログラムに示します。

Pro*Cプログラムとは、埋込みSQL文が含まれているCプログラムです。Oracle Pro*C/C++およびPro*COBOLのデモでは、

リアルタイムで変更できる操作である動的SQL操作をサポートするための拡張機能を提供します。動的SQL操作を、PL/SQLコード(匿名PL/SQLブロックとして知られています)を介してPro*C/C++およびPro*COBOLアプリケーションとともに使用することもできます。標準的なアプリケーションでは、動的SQLよりも静的SQLのほうがより多く使用されています。プリコンパイラは、それぞれの埋込みSQL文を、プリコンパイラ・ランタイム・ライブラリ(SQLLIB)のコールに変換します。

関連トピック

- [『Pro*C/C++プログラマーズ・ガイド』](#)
- [Pro*COBOLプログラマーズ・ガイド](#)

1.1.1.6 Oracle Spatial and Graphのデモについて

Oracle Spatial and Graphのデモでは、Oracleデータベースでの空間特性コレクションの格納、取得、更新および問合せを容易にするSQLスキーマおよびファンクションを提供します。

Oracle Spatial and Graphは、ファンクションとプロシージャを統合したもので、これによって、Oracle Databaseで空間データを迅速かつ効率的に格納、アクセスおよび分析できます。空間データは、現実または概念のオブジェクトの本質的な位置特性を、それらが存在する現実または概念の空間に関連するものとして表します。

関連トピック

- [Oracle Spatial and Graph開発者ガイド](#)
- [Oracle Spatial and Graph GeoRaster開発者ガイド](#)
- [Oracle Spatial and Graphトポロジ・データ・モデルおよびネットワーク・データ・モデル・グラフ開発者ガイド](#)

1.1.1.7 Oracle Internet Directoryクライアントのデモについて

Oracle Internet Directoryクライアントのデモは、アプリケーション・プログラマのためにLDAP CおよびPL/SQL APIの使用方法を示します。

C APIに基づいたすべてのLDAP操作で、クライアントがLDAPサーバーとのLDAPセッションを確立することが求められます。PL/SQL APIに基づいたLDAP操作を実行するには、最初にデータベース・セッションを初期化してからLDAPセッションをオープンする必要があります。DBMS_LDAPパッケージを使用すると、PL/SQLアプリケーションでLDAPサーバー内にあるデータにアクセスできます。ファンクション・コールの名前と構文は、C APIの場合と同様です。

関連トピック

- [Oracle Fusion Middleware Oracle Identity Managementアプリケーション開発者ガイド](#)

1.1.1.8 Oracle XMLのデモについて

Oracle XMLのデモは、XMLを処理するC、C++およびJavaソフトウェア・プログラムの作成とデプロイを可能にする多目的なコンポーネント・セットである、Oracle XML Developer's Kit(XDK)の機能を示します。

関連トピック

- [Oracle XML Developer's Kit JavaBeanデモ・プログラムの実行](#)
- [XML C++ Class Generatorの使用例](#)
- [XML Parser for Cコマンドライン・ユーティリティの使用: 例](#)

1.1.1.9 Oracle Call Interfaceのデモについて

Oracle Call Interface (OCI)のデモには、OCI APIを使用するためのC言語のサンプル・プログラムが含まれています。

これらのプログラムはC言語のデータ型、コール規則、構文およびセマンティックを提供します。

関連トピック

- [Oracle Call Interfaceプログラマーズ・ガイド](#)

1.1.1.10 Oracle C++ Call Interfaceのデモについて

Oracle C++ Call Interface (OCCI)のデモは、C++で記述されたアプリケーション用にデータベース・アクセスAPIを提供します。コントロール・クラスにより、アプリケーションをデータベースに接続し、文や結果セットのようなリソースを作成できるようになります。データ・クラスには、様々なタイプのデータが含まれます。オブジェクト・クラスおよびメソッドは、オブジェクトへのアクセスおよび操作のためのナビゲーション・インタフェースを提供します。オブジェクト型トランスレータ(OTT)を使用して、Oracleデータベースで定義されたデータ型のC++クラス・ヘッダーを生成することができます。インストールされたデモは、OTTおよびOCCIのクラスおよびメソッドの使用方法を示します。

関連トピック

- [Oracle C++ Call Interfaceプログラマーズ・ガイド](#)

1.1.1.11 Oracle ODBCの関連物について

Oracle ODBC Driverのデモは基本的な構造のODBCアプリケーションを提供し、これは完全なODBCアプリケーションに拡張することができます。

ODBCは標準であるため、ODBCドライバの概要を説明するドキュメントに多数のサンプル・アプリケーションを見つけることができます。Oracle ODBCドライバの特定のオプションについては、WindowsでData Source Nameを設定する際にヘルプを参照してください。

関連トピック

- [Oracle Databaseの管理者リファレンス](#)

1.1.2 Oracle JDBC開発ドライバ

Oracleには、コードのデバッグやその他のデプロイ例に使用できる一連のJDBCドライバがあります。これらのドライバでは、Oracle Database 10g リリース2以降にアクセスできます。

1.1.3 Oracle Textナレッジ・ベース

Oracle Database Examplesメディアにより、2つのOracle Textナレッジ・ベース(英語およびフランス語)がインストールされます。必要に応じて、提供されたナレッジ・ベースを拡張できます。また、英語およびフランス語以外の言語で、独自のナレッジ・ベースを作成することもできます。

関連トピック

- [Oracle Textリファレンス](#)

1.2 インストール前の考慮事項

Oracle Database Examplesのインストール要件は次のとおりです。

- [空きディスク領域](#)
- [必須の製品](#)

1.2.1 空きディスク領域

Oracleホーム・ディレクトリが含まれるファイルシステムに、少なくとも次のものがあることを確認します。

- UNIXシステムの場合は、1.1 GBの空きディスク領域。

- Windowsシステムの場合は、800 MBの空きディスク領域。

次の項では、UNIXプラットフォームおよびWindowsプラットフォームの空きディスク領域を特定する方法の詳細を説明します。

- [UNIXプラットフォームの空きディスク領域の特定](#)
- [Windowsシステムの空きディスク領域の特定](#)

1.2.1.1 UNIXプラットフォームの空きディスク領域の特定

UNIXプラットフォームの空きディスク領域をチェックする方法を説明します。

次のコマンドを使用し、Oracleホーム・ディレクトリに十分な領域があることをチェックします。

- `df -k oracle_home_path`

ここで、`oracle_home_path` Oracleホーム・ディレクトリに対するパスです。

1.2.1.2 Windowsシステムの空きディスク領域の特定

Windowsシステムの空きディスク領域を特定する方法を説明します。

次の手順を実行し、Oracleホーム・ディレクトリに十分な領域があることをチェックします。

1. 「**マイ コンピュータ**」をダブルクリックします。
2. Oracleソフトウェアをインストールするドライブを右クリックします。
3. 「**プロパティ**」を選択します。

1.2.2 必須の製品

Oracle Database Examplesを使用するために必要な製品について説明します。

Oracle Database Examplesを使用するには、まずOracle Databaseにサンプル・スキーマをインストールする必要があります。Oracle Databaseをインストールするときや、Database Configuration Assistantを使用してデータベースを作成するときに、サンプル・スキーマを含めることができます。既存のデータベースに手動でサンプル・スキーマをインストールすることもできます。

注:



Oracle Database 12c リリース 2 (12.2)以降、データベースのインストール後に HR サンプル・スキーマのみが自動的にインストールされます。HR を含むすべてのサンプル・スキーマは、GitHub 上に配置されます。

[『Oracle Database サンプル・スキーマ』](#)

1.3 インストール・ソフトウェアへのアクセス

Oracle Databaseのインストールで使用されているOracleホーム・ディレクトリを確認する方法について説明します。

Oracle Database Examplesメディアから製品をインストールする前に、システムにOracle Database 19cのOracleホームへのアクセス権があることを確認する必要があります。必要であれば、まずこのリリースのOracle Databaseをインストールするか、このリリースにアップグレードします。

Oracle Databaseのインストールで使用されているOracleホーム・ディレクトリを確認します。

UNIXプラットフォームでは、oratabファイルは/etcディレクトリまたは/var/opt/oracleディレクトリにあります。moreコマンドを使用して、oratabファイルのコンテンツをチェックします。例:

```
# more /etc/oratab
```

Windowsプラットフォームの場合:

1. 「スタート」メニューから、「プログラム」、「Oracle - HOME_NAME」、「Oracle Installation Products」、「Universal Installer」の順に選択します。
2. 「よろこ」画面が表示されたら、「インストールされた製品」をクリックします
システム上のすべてのOracleホームと、各Oracleホームにインストールされている製品が表示された「インベントリ」画面が表示されます。
3. 「インベントリ」画面で各Oracleホームを開き、**Oracle Database 19c**を検索します。
4. 「閉じる」をクリックし、次に「取消」をクリックしてOracle Universal Installerを終了します。

関連トピック

- [『Oracle Databaseインストール・ガイド』](#)

1.3.1 Oracle Database Examplesのダウンロード

製品のデモを表示するためには、Oracle Database Examplesを既存のOracleホームにダウンロードおよびインストールする必要があります。

この項では、コンピュータ上のOracle Database 19cのOracleホーム以外の場所にOracle Database Examplesをダウンロードする方法を説明します。

1. Oracle Technology Networkで、次に示すOracle Database 19cのダウンロード・ページに移動します。
<http://www.oracle.com/technetwork/database/enterprise-edition/downloads/index.html>
2. 「See All」リンクを選択し、「Oracle Database 19c Examples」の下にあるOracle Database Examplesのzipファイルを選択します。

1.4 Oracle Database Examplesのインストールについて

Oracle Database Examplesは、Oracleホーム・ディレクトリに製品デモをインストールし、\$ORACLE_HOME/demo/schemaディレクトリ内のサンプル・スクリプトにSQLスクリプトをインストールします。これらの製品データ・モデルを使用するには、データベースにサンプル・スキーマをインストールする必要があります。Oracleデータベースのインストール中、またはDatabase Configuration Assistantを使用したデータベースの作成中にサンプル・スキーマが含まれていない場合、SQLスクリプトを実行して手動でそれらをインストールできます。

次のメソッドの1つを使用して、Oracle Database Examplesをインストールします。

- [Oracle Universal Installerを使用したOracle Database Examplesのインストール](#)
- [レスポンス・ファイルを使用したOracle Database Examplesのサイレント・インストール](#)
- [読取り専用Oracleホームでのdemoディレクトリについて](#)

関連トピック

- [サンプル・スキーマの手動インストール](#)

1.4.1 Oracle Universal Installerを使用したOracle Database Examplesのインストール

Oracle Database Examplesは、既存のOracle Database 19cのOracleホームにインストールする必要があります。

Oracle Database Examplesをインストールするには、次の手順を実行します。

1. Oracle Databaseがインストールされているコンピュータにログインします。

UNIXプラットフォームでは、Oracleソフトウェアの所有者ユーザー(oracle)としてログインし、DISPLAY環境変数を設定します。

Windowsプラットフォームでは、Oracleコンポーネントをインストールするコンピュータの管理者または管理者グループのメンバーとしてログインします。プライマリ・ドメイン・コントローラ(PDC)またはバックアップ・ドメイン・コントローラ(BDC)をインストールしている場合は、Domain Administratorsグループのメンバーとしてログインします。

2. 使用する予定のOracle Databaseがアクセス可能であることを確認します。

詳細は、[インストール・ソフトウェアへのアクセス](#)を参照してください。

3. インストール・ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。

4. zipファイルの内容を抽出します。

5. 次のコマンドを実行し、Oracle Universal Installerを起動します。

UNIXプラットフォームの場合：

```
$ ./runInstaller
```

Windowsプラットフォームの場合：

setup.exeをダブルクリックします。

6. 「インストール場所の指定」画面で、次のように入力します。

- Oracleベース： デフォルトでは、Oracleベースのパスが表示されます。このパスは要件に応じて変更できます。Oracleベースのパスを指定します。

Oracleベース・ディレクトリは、Oracleソフトウェア・インストールの最上位ディレクトリです。

- ソフトウェアの場所： 「ソフトウェアの場所」フィールドで、デフォルト値をそのまま使用するか、Oracle Database ExamplesをインストールするOracleホームのディレクトリ・パスを入力します。Oracle Databaseのサンプルは、既存のOracle Databaseホームにインストールする必要があります。

注意：



現行リリースと異なる Oracle Database ホームに Oracle Database Examples をインストールすると、インストールは失敗しエラーが発生します。

選択したOracleホームにOracle Real Application Clusters(Oracle RAC)がインストールされている場合は、Oracle Universal InstallerでGridインストール・オプション画面が表示されます。サンプル・ソフトウェアは、選択したOracle RACホームが存在する全ノードにインストールされます。表に示されているノードは、インストール済のOracle RACホームがOracleインベントリに登録されているノードです。

リストされている各ノードが稼働していることを確認してから、「次へ」をクリックしてください。



注意：

Oracle RAC のインストールでは、ソフトウェアがすべてのクラスタ・ノードにインストールされます。

7. 前提条件チェックの実行画面で、Oracle Universal Installerによるシステムのチェックで発生している場合のあるエラーを確認して修正します。「再チェック」をクリックすると、前提条件を再実行して、インストールを続行するための最小要件が満たされているかどうかを確認できます。問題を修正してからシステム要件を再チェックする場合は、「修正および再チェック」をクリックします。

注意:



「修正および再チェック」オプションにより、一部のシステム・パラメータを Oracle 推奨値に設定するスクリプト (UNIX のみ) が生成されます。スクリプトを root ユーザーで実行する必要があります。このスクリプトの内容は変更しないことをお勧めします。

リストから、オプションを1つ選択します。

- 「すべて表示」: 実行したすべての前提条件チェックのリストを表示します。
- 失敗したものを表示: 失敗した前提条件チェックのリストを表示します。
- 成功したものを表示: 成功した前提条件チェックのリストを表示します。

8. 「サマリー」画面に表示された情報を確認して、「インストール」をクリックします。

注意:



「レスポンス・ファイルの保存」をクリックして、すべてのインストール手順をレスポンス・ファイルに保存します。後で、このファイルを使用してサイレント・インストールを実行できます。

9. 「製品のインストール」画面は製品をインストールする際に表示されます。インストール操作にはファイルのコピー、Windowsシステムへのサービスの追加、UNIXシステムへのリンク、判断や計算の実行などのアクションが含まれます。インストールが完了すると、「終了」画面が表示されます。
10. 「閉じる」をクリックしてOracle Universal Installerを終了します。

1.4.2 レスポンス・ファイルを使用したOracle Database Examplesのサイレント・インストール

サイレント・インストールは、バックグラウンドで実行され、ユーザーによる入力を必要としません。通常目にする対話型のダイアログは表示されません。サイレント・インストールは、複数のコンピュータにOracle製品を複数回インストールする必要がある場合に役立ちます。

Oracle Database Examplesのサイレント・インストールを実行するには、Oracle Universal Installerをサイレントまたはレスポンス・ファイル・モードで起動する必要があります。次のようにコマンドを入力します。

1. UNIXプラットフォームの場合:

```
$ /directory_path/runInstaller [-silent] -responseFile responsefilename
```

注意:



レスポンス・ファイルのパスを相対パスで指定しないでください。相対パスを指定すると、Oracle Universal Installer は正常に動作しません。

説明:

- `directory_path`は、DVD上またはハード・ドライブ上のデータベース・ディレクトリのパスです。
- `-silent`を指定すると、Oracle Universal Installerがサイレント・モードで実行されます。
- `responsefilename`は、構成したインストール用レスポンス・ファイルのフルパスとファイル名です。

2. Windowsプラットフォームの場合:

```
DRIVE_LETTER:¥setup.exe_location setup [-silent] "variable=setting" [-nowelcome] [-noconfig] [-nowait] -responseFile
```

説明:

- `DRIVE_LETTER`: レスポンス・ファイルのフルパスを指定します。
- `setup.exe_location`: `setup.exe`の場所を示します。
- `"variable=setting"`は、レスポンス・ファイルに設定するのではなく、コマンドラインで実行するレスポンス・ファイル内の変数を参照します。変数とその設定値は引用符で囲みます。
- `-noconfig`: インストール時にコンフィギュレーション・アシスタントの実行を抑制します。
- `-nowait`: サイレント・インストールが完了すると、コンソール・ウィンドウを閉じます。

1.4.3 読取り専用Oracleホームでのdemoディレクトリについて

読取り専用Oracleホームを構成した場合は、一部のdemoディレクトリをORACLE_HOMEからORACLE_BASE_HOMEにコピーする必要があります。

詳細は、[Oracle Databaseインストール・ガイドfor Linux](#)を参照してください。

1.5 ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracleのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWebサイト (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracleサポートへのアクセス

サポートを購入したオラクル社のお客様は、My Oracle Supportを介して電子的なサポートにアクセスできます。詳細情報は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

1.6 Java Accessibilityを実装するためのJava Access Bridgeの設定

Java Access Bridgeをインストールして、Microsoft Windowsシステムのアシティブ・テクノロジーでJava Accessibility APIを使用できるようにします。

Java Access Bridgeは、Java Accessibility APIを実装するJavaアプリケーションおよびアプレットをMicrosoft Windowsシステム上のユーザー補助テクノロジーから可視にするためのテクノロジーです。

Java Access Bridgeを使用するために必要なアシティブ・テクノロジーの最低バージョンの詳細は、*Java Platform, Standard Edition*アクセシビリティ・ガイドを参照してください。また、インストールとテストの指示、Java Access Bridgeの使用方法に関する指示の取得についても、このガイドを参照してください。

関連トピック

- [Java Platform, Standard Edition Javaアクセシビリティ・ガイド](#)